

15. 通知・公開・オプトアウトの場合の説明事項

オプトアウトの揭示方法について

- ☒ 当院ホームページ
 ☐ 部署掲示板
☐ その他()

題名：横浜労災病院で心肺停止状態に対し、V-A ECMO を使用した患者さんへ

当院では、下記の臨床研究を当院倫理委員会の審査を経て病院長の許可のもと行っています。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、あなたの診療情報や検査などで残った検体の下記の研究への利用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして研究に利用させていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用するまたは提供されることを希望されない場合、また研究に関する質問等ございましたら、下記に記載している問合せ先へご連絡下さい。利用を希望されないことが今後の診療に何らかの影響を与えることは一切ありません。

研究課題名 (承認番号)	機械的胸部圧迫装置を併用した胸骨圧迫下における ECMO 導入と 肝損傷の関係性 (2025-13)
当院の研究責任者 (所属)	柴崎 貴俊 救急科
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	心肺停止状態において、その蘇生を目的として体外循環 (ECMO と呼びます) を用いた蘇生処置を行うことがあります。当院では、ECMO を用いるにあたって自動胸骨圧迫装置である LUCAS を使用していますが、自動胸骨圧迫装置により、肝損傷を起こしてしまう報告が散見されています。ECMO を用いる場合は、管理の一環として抗凝固薬を使用する必要があり、肝損傷がある状況下での抗凝固薬使用が肝損傷による出血を悪化させることがあります。出血が悪化すると致死的になる場合がありますが早期発見が重要ですが、LUCAS の使用による肝損傷は、こういったことがリスク因子になるかなど不明なことも多く、発見が遅れることも多いとされています。こういった場合に LUCAS による肝損傷が起きやすいかなどを調査することで、肝損傷の早期発見に繋げることができると考え、本研究を行います。
研究の方法	研究デザイン：診療録を用いた単施設後ろ向き観察研究

(利用する試料・情報)	2020 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの 5 年間を対象期間とし、その期間内に当院において心肺停止に対して ECMO を導入し、当院 ICU に入室した患者さんを対象とし、診療録より身長、体重、血液検査結果、画像検査結果、バイタルサインなどを集計します。 研究実施期間：倫理委員会承認後～ 2027 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の 該当期間	2020 年 4 月～ 2025 年 3 月
試料・情報の他の 研究機関への提供 および提供方法	なし
個人情報の取り扱い	利用する試料・情報から、氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究には資金は必要ではなく、また本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：045-474-8111(代表) メールアドレス：kenkyu@yokohamah.johas.go.jp 担当者：柴崎 貴俊 (所属：救急科)
備考	